

智頭病院だより

带状疱疹、带状疱疹ワクチンに関して

智頭病院内科科長 加藤 弘之

最近、外来で「近所の方が带状疱疹（たいじょうほうしん）になって、すごく痛そうだった」「ワクチンを打ったほうがいいの？」と相談されることが増えてきました。そこで今回は、50歳を過ぎたら他人事ではない「带状疱疹」と「带状疱疹ワクチン」について、お話しします。

带状疱疹って、どんな病気？

带状疱疹は、体の片側にピリピリ、チクチクとした痛みが起こり、赤いブツブツや水ぶくれが帯状にできる病気です。

その原因は「水ぼうそう」のウイルスです。水ぼうそうは治ったあとも、ウイルスが体内の神経に潜んでいます。加齢、疲労、病気などで免疫力が落ちると、ウイルスが暴れ出します。一番怖いのは「長引く痛み」です。水ぶくれが治っても、激しい痛みが残ることがあります。

しかし、带状疱疹はワクチンで予防できるようになりました。50歳以上で約97%という高い予防効果があり、その効果は約10年間、維持されるものもあります。

よくある質問（Q&A）

Q 带状疱疹になったことがあっても打てる？

A 打てます。

かかったことがある人でも、数年経つと免疫が落ち、再発することがあります。再発予防として接種はとても有効です。

Q 副反応は強いのか？

A 接種箇所の痛みや腫れ、だるさや熱が出る人が多いです。

これは体中で強い免疫を作っているサインでもあります。多くは3日以内に自然に治まりますが、接種の翌日は大切な予定を入れない方が安心です。

Q 費用はどれくらいかかる？

A 接種券の自己負担額を確認してください。65歳以降、5年刻みで、その年齢の年度内に接種する必要があります。65歳未満の人でも、全額自己負担となりますが、接種できます。



带状疱疹はかかると本当に辛い病気です。しかし、今は「ワクチンで大部分が防げる病気」になりました。

「自分は大丈夫」と思わず、健康で元気な毎日のため「お守り」として、智頭病院でワクチンの接種を検討してみませんか？

また不安なことや、気になることがあれば、いつでも外来で相談ください。

带状疱疹ワクチンを受けませんか？

带状疱疹は、50歳代から発症率が上昇し、80歳までに約3人に1人が経験するといわれています。

接種のための簡単STEP

1 定期接種券を受け取る

※智頭町では、65・70・75・80・85・90・95・100歳の人に、4月上旬ごろ送付しています。

2 智頭病院に予約の電話をする

3 予診票を記入し、接種する

問合せ先

国民健康保険智頭病院

☎75-3211